

平成29年度病虫害発生予報第3号

平成29年 6月 2日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	5月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	紋枯病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	縞葉枯病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い 3月のヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は高い 5月下旬のヒメトビウンカの発生量はやや多い	+ + +
	ニカメイガ	平年並	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	ヒメトビウンカ	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

・防除対策

〔イネ・紋枯病〕

前年発生が多かったほ場では、ほ場内での発生状況に注意し、中干し後の入水時に漏水などがないようにした上で、リンバー粒剤、モンカット粒剤、モンガリット粒剤などで防除しましょう。防除適期は出穂20日前頃ですが、発生状況により前後させましょう。

〔イネ・縞葉枯病〕

3月17日発表の「平成28年度病虫害発生予察注意報第10号」を参照してください。

〔イネ・ヒメトビウンカ〕

縞葉枯病対策で防除が必要な場合は、「平成28年度病虫害発生予察注意報第10号」を参照して防除しましょう。

・留意事項

イネいもち病は気温20から25℃で曇雨天が続くと発生が多くなります。発生を確認したら、速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	アブラムシ類	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	± ±
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い	±
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒星病	やや少ない	県全域	4月の発病枝率はやや少ない 6月の降水量はほぼ平年並	- ±
	灰星病	やや多い	尾張地域	4月の発病花率はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒とう病	やや少ない	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない 6月の降水量はほぼ平年並	- ±
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	角斑落葉病 円星落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない	—
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	県全域	チャバネアオカメムシの越冬成虫密度はやや少ない	—
				フェロモントラップ及び予察灯における誘殺数はやや少ない	—

・防除対策

〔ウンシュウミカン・そうか病〕

発病した葉や果実は取り除き、園外へ持ち出して処分しましょう。ベンレート水和剤やナリアWDGなどで防除しましょう。

〔ウンシュウミカン、ブドウ・チャノキイロアザミウマ〕

本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号」を参照してください。

〔ナシ・黒星病〕

本日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

〔ナシ・アブラムシ類〕

ウララDFやアドマイヤーフロアブルなどで防除しましょう。

〔モモ・灰星病〕

開花期に花腐れがみられたほ場では、ベルコート水和剤やインダーフロアブルなどで防除しましょう。

〔モモ・ナシヒメシンクイ〕

ノーモルト乳剤やフェニックス顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔カキ・角斑落葉病、円星落葉病〕

樹勢が弱まると多発しやすいので、肥培管理に注意して樹勢の維持を図りましょう。ナリアWDGやチオノックフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

フジコナカイガラムシの第一世代1齢幼虫の発生ピークが近づいています。最新の気温データに基づく発生ピークの予測日は6月2日から6月10日で、5月16日発表の「フジコナカイガラムシ情報第1号」の予測日と同じです。前年、発生が多かったほ場では、1齢幼虫の発生ピーク予測日に合わせて防除しましょう。

野菜

・留意事項

ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病(MYSV)が発生している施設キュウリほ場、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病(TYLCV)やコナジラミ類が媒介するトマト黄化病(ToCV)が発生している施設トマトほ場では、次作への伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

施設ナスでも、ミナミキイロアザミウマが発生しているほ場では、次作への発生源とならないように、栽培終了後に施設を密閉してミナミキイロアザミウマを死滅させましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
		平年並	中山間部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±

・留意事項

キク（露地）では、白さび病の発生が多いほ場があります。被害葉を切除して適切に処分するとともに、系統の異なる農薬でローテーション防除しましょう。

アザミウマ類、ハダニ類などの害虫は、気温が高いと増加しやすくなるので、ほ場をよく観察して発生を確認したら早めに防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台6月1日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕	低い：30%	平年並：30%	高い：40%
〔降水量〕	少ない：30%	平年並：40%	多い：30%
〔日照時間〕	少ない：30%	平年並：40%	多い：30%